

令和元年度 調布市立上ノ原小学校 学校評価報告書				様式1
領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察において、全ての授業で1時間ごとのねらいが明示されていた。</li> <li>タブレット使用率一人「1コマ以上使用が年度末には8割となった。</li> <li>校内研究の研究授業を3回行い、講師の指導を受けた。</li> </ul> ○全体として、教師がただ説明をする授業は概ねなくなり、児童同士の対話活動を取り入れることが多くなった。 △対話的な学習を入れることで、児童の思考が深まったり、変容に導いたりするまでには至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担任制の中学では、全教科で「対話的な学び」に取り組んでいます。色々な教科でどう取り入れるか、という視点をもあつてよいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究の視点をさらに明確にして、全校で取り組む。その際「対話」活動が児童の思考の深まりにどう結びついているかという視点を重視して取り組む。</li> <li>調布市研究推進校としての2年目の取り組みに取り組む。1月29日の研究発表会においては校内研究の取り組みを発信する。</li> </ul>	A
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年地域人材やGTを活用した授業を実施した。</li> <li>ボランティアやSSの活用で特別な支援を要する児童への支援が充実した。</li> <li>70周年記念集会では、全校で上ノ原小の歴史を学ぶことができた。</li> </ul> ○地域の教育力を活用した教育活動が展開できたと考えている。 △GTを招いた授業が年度の後半に集中しがちだった。計画性に課題が残る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動に地域の視点が生かされる良い機会であると捉えている。</li> <li>人材の確保に地域の青少年育成団体も協力していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の取り組みをベースとして、年度初めに各学年のGTを取り入れた授業の計画を立案する。</li> <li>地域支援協働本部コーディネーターとも連携しながら地域の人材を発掘する。</li> </ul>	B
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みまでに個別の支援計画・教育計画を全員分作成できた。しかも、保護者との相談の上作成することができた。</li> <li>コーディネーターの役割は明確になったが、学年の担当者があまり機能しなかった。</li> <li>副校長1名が相談機関との窓口となって連携の中核となった。</li> </ul> △特別支援教育についての教職員の意識をさらに高める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会の持ち方の工夫が大変だと思います。コーディネーター間の意思疎通を図りたいと思っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーターを養護教諭とともに担任から2名指名して、組織的に動く体制を強化する。</li> <li>特別支援教育にかかわる研修会を企画し、教職員の特別支援教育への理解を深める。</li> <li>特別支援校内委員会を定期的に開催して、個別の事案に対して具体的に合理的配慮の内容を検討する。</li> </ul>	A
	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童間のトラブルが学年で共有され、管理職にも確実に情報が上がってくるようになった。そのため、管理職から適切な指示や指導を行える場面が多かった。</li> <li>学校行事の目標やありかたについてもっと共有する度合いを高めた。</li> <li>学年で合わせてということでも学級経営の大きな乱れは見られなかった。</li> </ul> △大きな乱れはないが、一人一人の担任が学級経営に対する工夫や改善の意識をさらに高めたい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の特徴である学年で児童全員を見る体制を継続しつつ、児童の状況や発達段階に合わせた柔軟な取り組みを行う。</li> <li>学級担任が担任する学級の児童について中心となって理解を深める。</li> <li>学年会を週1回必ず実施して、児童の情報を複数の教員で共有して指導に当たる。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタンダードはあるがあまり強く指導していなかった。</li> <li>いじめ対策委員会は、問題が発生したときのみの開催となった。</li> <li>道徳授業の実践した資料等の保管が進んだ。しかし、授業・評価の充実には足りなかった。</li> </ul> △豊かな心の育成については、取り組みがやや薄い。もっと力点を置くべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタンダードの整理に合わせ、機に応じて指導ができる視点で育てていきたいと思っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上小スタンダードを学習編と生活編両方の視点で作成し直し、教員の指導ができるだけ同一方向で行う工夫をする。</li> <li>道徳主任を中心として、道徳授業の方法・評価について情報発信をする。</li> </ul>	C
健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の外遊びの割合は高まっている。</li> <li>タグラグビー大会にクラブ児童が3チーム参加することができた。外部指導員は招聘できなかった。</li> <li>体育行事は計画通り実施。教員の取り組み状況は十分とは言えない。</li> </ul> △運動の日常化は全体にまで広がっているとは言えない。		<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間の外遊びの推奨。教員ができるだけ児童とともに外へ出る。</li> <li>運動会や持久走大会を継続するが、時短や大会運営の簡易化を図る。</li> <li>外部指導員の招聘の実現</li> </ul>	C
	<ul style="list-style-type: none"> <li>うがい、手洗いの指導は行ったが、学級閉鎖の学級が2学級でた。歯磨きについては施設上の困難さがあった。</li> <li>アレルギー対応の方法や献立の作成について若干の修正を加えつつ、決められた対応方法の徹底を行った。</li> </ul> ○健康に係る指導の充実には着実に成果があがっている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大を受けて、一層の感染拡大防止対応の指導を徹底する。</li> <li>食物アレルギー対応の研修を確実に。毎日行うべき対応についての再度の徹底。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動能力調査の結果をもとに、個別に目標を立てさせる指導を行うことができた。</li> </ul> △一方、学校全体の踏査結果の分析を体育指導の改善事項として提案させることはできなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に性差なく運動好きな子が多いと思います。体を動かす場の確保は大切だと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体の体力向上策についての具体的な提案を行う。</li> <li>個別カードを使用して個々の取り組みを啓発する。</li> </ul>	B
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当副校長を中心に、地域学校協働本部が立ち上がった。地域支援コーディネーターの働きも軌道に乗って、ボランティア・学習支援・GTなどの人材の活用につながった。</li> </ul> ○立ち上げ1年目の成果としては十分であり、この経験に基づき来年度の計画を立てていきたい。 △予算面では計画通り執行できなかったり、不足するところもあった。		<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に地域支援コーディネーターと副校長で予算執行計画を作成する。</li> <li>「地域支援協働本部だより」を発行して、活動内容を発信することで、ボランティアや学習支援員の人材を確保する。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAの会議に管理職が必ず参加して、活動の理解と学校への協力体制を構築することができた。</li> <li>PTA行事への参加は徐々にではあるが増えている。</li> </ul> ○PTAとの連携が深まり、保護者と学校がともに手を携えて子供の教育にあたっていくという姿勢が強まった。		<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度もPTAの会議に管理職が必ず参加して意思疎通を図っていく。</li> <li>PTAの活動を周知するために、学校のHPからリンクをはっていきよう調整する。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの会の大きな行事等には必ず管理職が参加することに努めた。</li> <li>大きな行事等には教員の半数以上が参加して地域の方々からも好評であった。</li> </ul> ○上ノ原の地区の地域の教育力が高く、地域の子供を大切に育てようとする人々との連携を大切にしたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教職員の方々への地域行事への参加も多くあり、地域としても学校が教育活動に十分に組みこめるよう支援していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者にも地域の活動が理解されるように周知していく。</li> <li>学校行事やその他の活動と地域行事との重なりがないように調整していく。</li> </ul>	B
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科交換や学級交換指導の良さや弱点について振り返り、発達段階に応じてこれらの活動を推進していくという確認ができた。</li> <li>担任制の良さや弱点についても共通認識した。</li> </ul> ○どの活動にも良さやそうでない部分があり、これらを自覚して推進していくべきだと考えた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年では積極的に教科交換授業を実施して専門性を生かした授業を目指す。</li> <li>低学年では、いくつかの教科に焦点化して交換授業を行う。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>式典では地域の方々やPTAの方々の力と学校の力が合わさって、心に残るあたたかく厳かな式典を実現することができた。</li> </ul> ○地域組織やPTAの方々が式典に参加してよかったと言ってくれた。また、児童が生き生きと周年関連の取り組みを行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAや地域の力が結集した式典となった。学校がPTAや地域との関係を大切にできた成果が表れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周年行事は一段落であるが、10年後を見通してPTAとも協力して準備をしていく。</li> </ul>	C
	<ul style="list-style-type: none"> <li>5・6年生が車椅子バスケットの観戦を行うことができた。</li> <li>オリンピックを招いた講演と実演を行うことができた。</li> <li>狂言体験、茶道体験、落語講座、外国人留学生を招いての英語活動などの授業を実施することができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>オリンピックやパラリンピックへ全校児童が参加する計画である。実現のために課題となる点を計画的に解決していく。</li> <li>日本の伝統文化の体験は狂言・琴・茶道体験などの実績を積んだので、来年度も実施。</li> </ul>	B